

ニッポン

ドクター和の

臨終回卷



長尾和宏（ながお・かずひろ） 医学博士。東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で長尾クリニックを開業。外来診療から在宅医療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「薬のやめどき」「痛くない死に方」はいずれもベストセラー。関西国際大学客員教授。

昭和のお化けテレビ番組『欽ちゃんのどこまでやるの！』

で、萩本欽一さんの妻役を長年

務めた女優の真屋順子さん。

ほのぼのとした夫婦像が国民的

気を呼びました。番組が始まる

とき、かつてのドラマの役柄か

ら悪女のイメージが強かった真

屋さんに「日本一のお母さん

してあけるから」と欽

ちゃんは約束をしたとい

ります。

その真屋さんが昨年12月28日に旅立たれました。75歳でした。17年にも及ぶ闘病生活だったようです。

58歳のとき、脳出血で倒れたことが始まり

でした。左半身に麻痺が残りました。女優さんですから、大病の後

37 真屋順子



この勇気ある行動は、夫で舞台俳優の高津住男さんの愛情が

あつたからでしょう。献身的な介護とりハビリの甲斐あり、2003年には高津さんが演出する『出雲の阿国』に車いすで出演。05年の同舞台では、つえもなく立ち上がりみせ、拍手喝采がやまなかつたそうです。

その後も夫婦一緒に各地を講演するなどして、リハビリの重要性を伝えていました。

しかし09年に夫の高津さんが自宅で倒れて緊急入院。末期の肝臓がんであることがわかり、翌10年7月に死去。高津さんは死の3日前まで主演舞台に立て、自宅で亡くなりました。

夫を失った10年、真屋さんは心不全に襲われ、翌年には大動脈瘤で手術を受けて、徐々に体力が低下していました。

病床には、欽ちゃんをはじめ

「欽ごっこアーリー」が何度もお見舞いに来ていたようです。かつての「妻」の訃報を受けて欽ちゃんは、近くお別れの会をやっておしゃつているようですね。

闘病17年とはかわいそうと考

て、私は今まで何百という夫婦の暮らしを見ていて、妻の介護

を献身的にしていた夫の方が旅立つてしまふケースを時々経験します。女性の老いが長く緩やかな下り坂だとしたら、男性は比較的急勾配。男は哀れやな…と思いつつも、理想的な夫婦の形と感じることもあります。日本では男性の方が7歳も平均寿命が短いのですから、自然の摂理なのかもしれません。

夫を失った10年、真屋さんは心不全に襲われ、翌年には大動脈瘤で手術を受けて、徐々に体力が低下していました。

病床には、欽ちゃんをはじめ

「欽ごっこアーリー」が何度もお見舞いに来ていたようです。かつての「妻」の訃報を受けて欽ちゃんは、近くお別れの会をやっておしゃつているようですね。

2人の「夫」が支えた役者魂